

平成30年10月17日(水)

コミュニケーション能力

アクティブ・ラーニングについて、福島県立医科大学説明会で発言を求められました。

曰く、「アクティブ・ラーニングは生徒のコミュニケーション能力を培うことができるのか。」

答えて曰く、「然り。今の生徒はよく自分の考えをもって周りの者たちと意見を交わすことができる。そのことにより、コミュニケーション能力がはぐくまれている。」

曰く、「入学生を見るとそうは思わない。自分の意見をもって他人と話ができない。」

答えて曰く、「自分の高校生時代を考えると飛躍的に話す力を備えている。」というように、今一つ、その見解が分かれるところでありました。

その後、「内田樹」の書物を読んでいるとき、刮目する記述に会いました。「コミュニケーション能力とは、自分の意見をはっきり言ったり、人の話を目を輝かせて聞く力＝コミュニケーションを円滑に進める力のことではなく、コミュニケーションが不調に陥った時にそこから抜け出す能力のことである。」

なるほどとひざを打ちました。どうしてよいかわからないときに、どうするかわかる能力のことです。マニュアルや人の力を借りず、何とかして相手に敬意を払いながら相手の懐に飛び込んで話を聞き、こちらの意見を伝える力のことだということです。

これは大変なことです。が、重要なことです。道を探し、道を切り開く力の育成は経験がものをいいます。答えが見つからない課題に正面からあたる力のことです。これを若者に求めるのは酷というものではないかという意見もあるでしょう。

しかし、きっと、若者はやって見せてくれるのではないかと私は気楽に考えます。今の若者は、大きな力を持っています。

大人がそれを見守ることができればきっとやってくれると信じます。

磐城高校の諸君も同じです。いろいろなところで、みなきちんとやっていますよ。話してわかろうとしていますよ。ただし、時々疲れています。一人でよい込んでいます。

私はそんなときには、そっと後ろから、見守ります。「がんばれ」「それでいいんだよ」と独り言を言って見つめることしかできませんが、きっとやってくれるはずだと思っています。

そして、うまくいったときには、「よくできたね」と話すことにしています。皆さん、時間をかけて若者を見守りましょう。そして支えましょう。きっとやってくれるはずです。